

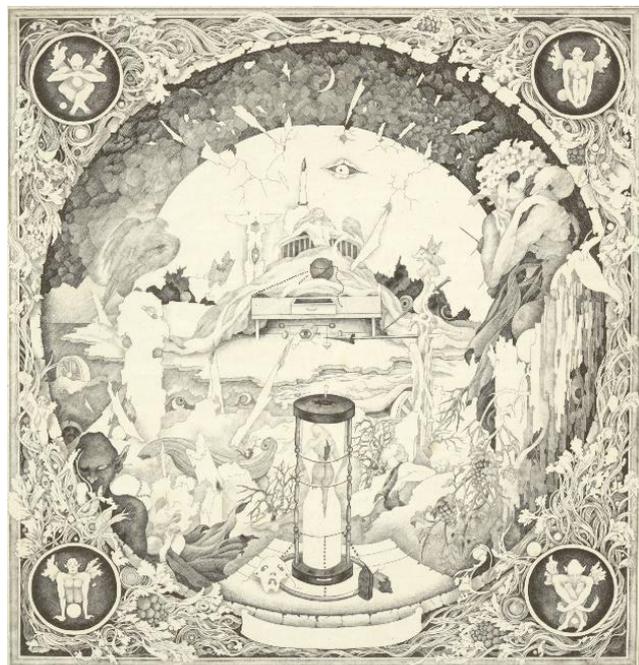
八王子市夢美術館では作品とともに八王子ゆかりの作家の様々な資料を保管し、調査・研究を行い展示に活用しています。ここでは、その一部をご紹介します。

清原啓子資料研究

清原啓子は深沢幸雄に見出され将来を嘱望された銅版画家でしたが、31歳という若さで急逝しました。その短い生涯の中で残した作品はわずか30点でした。

清原啓子の資料で特筆すべきは、銅版画の銅板原版と細密に書き込まれた下絵、20段階を超える工程の試刷りと腐蝕液の濃度や時間などがこと細かく記録された制作ノートの内容です。

これらの資料を整理するにあたっては、版画の実制作にかかわることから、技術的なアプローチを図るため多摩美術大学の版画研究室にも協力を仰いでいます。学生時代の清原を指導した渡辺達正教授による原版の保存（保護と展示を兼ねるための透明皮膜の塗布）、学生による清原の技法の実践研究を行い、展覧会を開催しました。



清原啓子《孤島》第一回試刷 1984年 エッチング



清原啓子《孤島》 1987年 エッチング

清原啓子の人と芸術について、今後も本サイトの内容を充実させ紹介していきます。